

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

学校名 嬉野市立吉田中学校

1 前年度 評価結果の概要
・学力の向上の項目ではマイプランの成果指標を達成できた職員が増え意識した授業実践に繋がっている。学力状況調査の結果も高い数値を示し7割の教科で県の正答率を上回り良好な結果となった。観点別では落ち込みが見られる教科も見られるので分析して授業に生かすことが必要である。
・心の教育の項目では道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。いじめの早期発見・早期対応体制の充実については、生徒の98.2%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえている。自分の夢や進路について考えるようになった生徒が増加した。今後も将来設計や意思決定能力を向上させる手立てを講じていきたい。
・業務改善・働き方改革の項目では、コロナ禍の中ではあったが職員の平均で時間外勤務時間は月45時間を15時間ほど下回った。しかし、個別に見ると平均で70時間を超える職員もおり、部活動指導の負担軽減などで業務の平準化を図る必要がある。学校行事等の規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものをはっきりと精選し、加えてタブレット等のICT機器の効果的活用についてさらに検証していく必要がある。
・地域とともにある学校づくりの項目では、地域に出向く活動は制限されたが、地域人材の活用など感染対策を十分に行いながら地域連携の取組を実施することができた。次年度もコロナの状況に合わせて実施する活動を増やしていきたい。

2 学校教育目標 賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びのなかで～

3 本年度の重点目標 ①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進 ⑤働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

Table with 5 main columns: 重点取組 (Evaluation Item, Content, Outcome Target), 具体的取組 (Specific Measures), 最終評価 (Achievement/Evaluation, Implementation Results), 学校関係者評価 (Evaluation, Comments), 主な担当者 (Main Person in Charge). It contains detailed data for various categories like '学力の向上', '心の教育', '健康・体づくり', and '業務改善・教職員の働き方改革の推進'.

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

Table with 5 main columns: 重点取組 (Evaluation Item, Content, Outcome Target), 具体的取組 (Specific Measures), 最終評価 (Achievement/Evaluation, Implementation Results), 学校関係者評価 (Evaluation, Comments), 主な担当者 (Main Person in Charge). It contains data for '小中一貫教育の推進' and '地域とともにある学校づくり'.

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望
・学力の向上に関しては、生徒が自ら考え伝え合うために必要な基礎・基本の定着を図る授業実践が定着してきている。また、各学年の実態に応じた朝自習の取組も実施できている。今後は、基礎・基本の定着から思考力・判断力・表現力の向上につなげるために、県学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善や朝自習の取組の充実を図る必要がある。
・心の教育については、計画的な道徳の授業や生徒主体の人権・同和教育を実践できている。生徒にとって、よい居場所となる学校の雰囲気や醸成できていることがアンケート結果からもうかがえ、いじめ問題の未然防止にもつながっていると思われる。今後は生徒主体の活動を通して、自己肯定感や自己有用感を向上させ、他者を認め合う雰囲気や高めていく。また、自分の進路について考えるようになった生徒が増加しており、地域と連携し外部人材を活用した体験学習が生徒の意識向上につながっていると思われる。今後は生徒の自己実現力、意志決定能力、コミュニケーション能力を高める活動を充実させていきたい。
・健康・体づくりでは、約98%の生徒が健康増進と体力の向上、感染症対策を意識した生活を送っている。朝食の喫食率も高まり、睡眠時間が十分にとれている生徒も増加した。今後は教師による指導、家庭との連携、生徒会を中心とした取組を継続して行っていく。
・業務改善・働き方改革については、全職員の時間外勤務時間の平均は上限の45時間を下回っているが、年度初めや学校行事に関する業務が増加する月は、上限を上回る職員がほとんどである。データの整理等を確実にし、業務の引き継ぎの効率化や業務の平準化を図っていく必要がある。また、部活動では複数顧問配置の利点を生かし、指導体制と指導の役割分担を再考し、業務改善につなげていく。そして、生徒と関わる時間の充実をさらに高めていきたい。